

## 赤岳鉱泉アイスキャンディー山行報告

【山 域】八ヶ岳連峰

【コース】美濃戸山荘～赤岳鉱泉～硫黄岳（台座の頭手前2600m 地点より撤退）  
赤岳鉱泉アイスキャンディー

【日 時】H29年1月20日（金）～22日（日）

【天 候】20日曇り、雪 21日晴れ、雪 22日雪曇り時々晴れ

【参加者】CL狩野（記録）、宮城、時田（明）

21日から参加 萱野（香）、小原、（会員外）時田（結）、

【山行タイム】

20日（金） 美濃戸山荘10：30→赤岳鉱泉13：00（泊）

21日（土） 赤岳鉱泉7：00→台座の頭方面手前9：30（ここで撤退）

→行者小屋12：00→赤岳鉱泉13：30（泊）後発隊到着14：15

22日（日） 赤岳鉱泉（アイスキャンディー）8：30～12：00→美濃戸山荘15：00

【山行報告】

20日（金）

まだ真暗だ、夜中かと思いき時計を見ると「お～」もう5時を過ぎていた。そろそろ起きないと。今日はちば山山行としてはゆっくり目の千葉駅6時集合である。自分がCLの時はいつもゆるい山行計画ばかりで山行管理から「こんな山行山岳会じゃない！」とか、ちらちら噂が聞こえたりする。今回の計画もなんとなく「アイスクライミングしてみたいね？」とか話をしている内に、「赤岳鉱泉の飯は凄いいよ！」「ステーキだよ！」「俺はしゃぶしゃぶしか食った事ない！」とか、いつの間にか赤岳鉱泉の夕食の豪華さの話になり「じゃーアイスクライミングもできるし飯も豪華だし赤岳鉱泉行こ～！どうせならジョウゴ沢なんかも見に行っちゃったりする？」「だったら大先輩のTさんをお願いして一緒に行ってもらおう？」とか話になり計画をたてた。

早々にTさんへ話したところ「じゃー軽くジョウゴ沢行くか？」と話しはどんどん進み、気分はアイスクライマー！とりあえずカッコから入る自分は、勢いでアイス用アイゼン、アイスアックスなんかを買ってしまいやる気満々になってしまった。

しかし、前夜Tさんよりやむお得不い事情ができてしまい不参加の連絡があった。

「ジョウゴ沢が！・・・」Tさんが大変な時なのに自己中気分になってしまい失礼しました。

気持ちを切り替え「雪遊びに行こ～！」なんてさらにゆるい山行になりそうな予感で千葉駅に集合した。いつも元気なTaさんがやっぱり一番乗りで、すでに到着していたらしい、セブンの方から歩いてきた。

「Mさんギリギリになりそうだって」「よかった、自分も朝グズグズしていて朝飯食えなかったんだ」早々セブンでおにぎり&味噌汁を購入し車の中で朝食を食べていると、すぐにMさんも現れた。Mさんはいつも朝食は食べないらしく飲み物だけ購入、夜は飲んで食ってスゴイのよね？

「三食しっかり食べた方が良くよ」と言う自分も「夜は飲むだけか？」とか思いつつ、「どっちにしても偏食は太るよね～」て、最近ちょい太り気味の3人で話しながら一路八ヶ岳へ向けて出発した。

金曜日の6時半、首都高速は結構車が多い。世間は通勤時間なんだな～とか思いつつ国立を通過。普段国立で生活をしている自分は昨日の夜国立を出て来た。なんとなく変な気分で中央高速に入

り、石川PAでトイレ休憩をしたがMさんは昨夜薬を飲んだらしく爆睡。  
冬の中央道はいつも空いていて今日も3時間程度で諏訪南ICを通過した。ICを降りて直ぐのコンビニをスルーしてもう少し先で、っと思っていたら、「この先はコンビニなきさうだよ」てロケスマを見ながらTaさんが言う、ちょっと寄り道をして最寄りのセブンに到着。  
しかし今回は行動食を買うほど行動しないかも？長くて明日4時間程度かな？  
結局、酒とつまみと非常食用にパンと飲み物を少々購入し、そこから10分程度で美濃戸口へ到着。そこそこ雪はあるが美濃戸山荘まで行けそうなのでそのまま直進した。っと思いきや、直進したら行き止まり。いきなり道を間違えた！何回も来ているのに？  
「美濃戸口から美濃戸山荘は左に曲がります、お間違えの無いように。」って言うか看板もあるのに間違える人はいないか？「同乗者の皆さんごめんなさい。」



美濃戸林道はいきなり急坂がありここでビビるようだったら引き返して歩いたほうが良いでしょう。後で聞いた話だが、次の日の朝、車が3台JAFを呼び1台は崖から落ちてしまい一時通行止めになったらしい。冬の山道は車も慎重に無理をしない運転をしましょう！

10時過ぎに難なく美濃戸山荘に到着。Taさんは横でビビっていたが、後ろではMさんが揺れる車で化粧を諦め足のテーピングをしていた。Taさんの声で私も少し真剣になってしまった。雪の中の沢沿いを歩いていると、Mさんが「川が凍って無いね？もしかして温泉？」とか言うので、CLの私が行きましょう！早速川まで下りて手袋を外し素手のまま川に手を突っ込むと「？ん・・暖かい？あー！冷たい！」あまりにも冷たすぎて一瞬感覚が無かった。よく見ると川も所々凍っていて氷柱もそこらじゅうにある、湯気も出てないし、赤岳鉱泉だって温泉湧いてるわけじゃ無いしね。なんだかんだと話しながらふかふか雪の中を歩いていると、赤岳鉱泉の屋根が見えてきた。そして「ガリガリ君ソーダ味！」のような巨大なアイスキャンディーがお出迎え！13時ころ赤岳鉱泉に到着した。



チェックインを済ませ、明後日のアイスクャンディーの予約確認をしたら、定員10名が1名キャンセルが出てキャンセル待ちもキャンセルになり後発隊のT yさんが追加できた、アイスクャンディー体験は日曜日のみ実施しているので、かなり人気が高く全員参加ができて超ラッキーだった。今日は平日で小屋もカラ〜ンとした感じで、早々部屋に案内された。結構大きい小屋なので人が少ないと部屋も寒ー！ガスのFFストーブをつけても全然暖かにならない、外を見ると雪も降っているし風も出てきて「ホワイトアウトになりそうだね〜」なんて弱気な気分になり、ついつい「今日のジョウゴ沢見学は止めよ！」って感じになり、「じゃー飲も！私はモツ煮とカン耐ハイ！」「え！じゃ〜俺はビールとモツ煮」T aさんは先々週の山行で飲み過ぎで懲りたのか、少しだけ自重していたが、ミートソースを注文して、やっぱり自然に飲み会になってしまった。T aさんの注文したミートソースは平麺で、ちょっとミートソースっぽく無くない？でも美味しいからいいか？モツ煮も超美味しい！マイ七味を出して昼間っから酔っぱらいになってしまった。部屋に戻り布団を出して飲み続けてしまい、Mさんは寝てしまった。私もちょっと記憶無し状態になり、あっという間に夕食の時間になった。

### マムートのワイングラス！



ちょっと飲み過ぎて豪華な食事は食えるかな？と思いつつ席に座ると、今日はステーキでも、しゃぶしゃぶでもなく、鳥鍋とさんまの塩焼き！これが山小屋飯か！と思うぐらい美味しい！さんまの塩焼きも、お腹の苦いところがぷりぷりで獲れたてのようだった。

ご飯を食べ過ぎてしまい、も一飲めない。とか言って部屋に戻ってからもちよこっと飲んでしまったが、部屋は相変わらず寒くて、ストーブも直ぐにサーモオフ（温度が上がると自動的に燃焼しなくなる事）してしまい、しょうがないので外の氷柱を折り室温サーモ部分にくっ付けて強制的に燃焼を続けさせたが、それでも暖まらない！小屋全体が冷えきっていて一部屋だけ暖房をしても暖まらないようだ。

21時消灯となりストーブも消えてしまい、毛布を2枚使いなんとか寝る事ができた。平日の山小屋は人が少ないから寝袋が必要かもしれない・・・、なんと軟弱な事を考えてしまう。だから「そんな山行山岳会じゃない！」って一喝されてしまうのだ。と思いつつ夢の中へ・・・。

21日（土）

5時起床。外はまだ薄暗いが朝から雪がチラついてた。

今日は同じ部屋でもう一泊なので荷物はそのまま山行の準備をした。「6時半から朝食なので7時半くらいには出発しよう。」とMさんもやる気満々、さすがに「雪だから今日の山行は止めて飲んじゃう？」って言うことも無く、全員サクサク仕度をして外へ出た。

小屋の入口を出て正面のトレースが硫黄岳方面だ。少し進むと大同心方面のトレースがしっかりとついていた。沢を渡り左が硫黄岳方面だが、今日はどちらにしても硫黄岳山頂は天気が悪そうで無理のようなので「右側からジョウゴ沢見学に行こうか？」「2時間歩いて到着しなかったら戻ってくればいいのか？」そんな話をしながらロープをくぐり大同心方面へ進んだ。



30分ほど行ったところでGPSを確認したら、ジョウゴ沢からは離れて行っている。「とりあえずトレースもしっかり付いているし行けるところまで行ってみよ。」樹林帯の中を徐々に高度を上げていった。GPSを確認しながら2時間弱登ったところでかなり急登な痩せ尾根に出た。左側が雪庇になっていて危険な感じだったが、Mさんがガシガシ登って行ってしまう。大声で呼び戻すと、Mさんは痩せ尾根を尻制動で下りて来た。あれ以上先はロープを出さないと危険な感じだったので撤退して正解だった。



下りは樹林帯の中のクネクネしたトレースを尻制動でソリ競技のスケルトンのように滑り降りて1時間弱で赤岳鉱泉に到着してしまった。このまま赤岳鉱泉で休憩してしまうと昨日の二の舞になってしまう。と思い、小屋の前をスルーしてThさんCLの一行が計画を出している行者小屋に行くことにした。中雪に飛び込んだり、木の枝の雪を落として「雪崩ー！」とか叫んだり、雪と戯れながら

平均年齢60を超えているアラ還ご一行がテントなのに、平均年齢約45のこちらとしてはちょっと心苦しい感じで行者小屋で休憩をした。そしてまたまた乾杯！戻りは40分くらいなので軽く飲んでしまい今日も昼間から酔っぱらいになってしまった。

行者小屋では餅そばと餅うどんを注文したが、やっぱり結構おいしい、標高が高いのに料理のクオリティーも高い。「西穂山荘のラーメンは標高が高いところで作る工夫をしている。」とか言っていたけどこっちの方が全然美味しい。標高は両方とも2300mくらいで変わらないのに？行者小屋でもマムートのポスターがいろいろ貼ってあり、クライマー気分させてくれる感があった。

12時過ぎ、Thさん一行もまだ姿が見えないようだし、あまり飲み過ぎると帰れなくなるので、そろそろ赤岳鉱泉に帰って後発隊のお出迎えに行くことにした。13時赤岳鉱泉に到着し、部屋着に着替えてから食堂で後発隊の来るのを待っていると、続々登山客が入って来た。



今日は200人入るそうで、私たちの部屋の前の談話室まで布団が置いてあった。入って来た登山客の話では、今朝早い時間に美濃戸林道で車が3台登れなくなり通行止めになっていたらしい。後発隊は9時ころ高井戸の事故渋滞で大分遅れているとの連絡があったので恐らく影響なかったのかな？

余談ではあるが、昔私が4輪駆動車のレースに出ていたころ、新雪をラッセルして走る場合はスタットレスでは無理で四輪ともチェーンを巻いていた。恐らく昨日から降り続ける雪が美濃戸口からの林道に降り積もっていたのかもしれない？後発隊は大丈夫だろうか？心配しながら食堂で飲んでると、Mさんが「あ！Kちゃんだ！」入口の方を見ると、大勢の登山客の中に後発隊の面々が見えた。14時過ぎやっと後発隊が到着した。5時ごろ千葉を出発しているので、ここまで9時間以上掛かっている事になる。「お疲れ様でした」

「美濃戸林道はどうだったんだろう？」話を聞くと、Kkさん運転の車は誰も躊躇なく美濃戸山荘まで進み、難なく駐車場へ到着したとの事だった。さすが4駆マスター！頼もしい！

6人全員が揃い部屋でまたまたまたの乾杯！



窓の外を見ると氷柱の向こうの空が青くなっていた。「明日も晴れると良いねー！」とか話しながら18時過ぎ夕食の時間となった。



「今日はどんな料理が出るのだろうか？」赤岳鉱泉名物の夕食はステーキだった！私は赤岳鉱泉の夕食は4回目になるが、初めてステーキに巡り合えた、やっぱり美味しい！肉は分厚く柔らかい、食べ放題のご飯とみそ汁、柴漬けも大盛りだ！Mさんは柴漬けがかなり気に入ったらしく、ご飯を何杯もおかわりしていた。またまた満腹中枢が壊れてしまったようだ・・・

かなり混雑していた食堂も19時を過ぎると空～んとしてしまった。ちば山の伝統なのだろうか？何処でも飲んで騒いでしまう・・・。ヤマヤは早寝早食い早〇そ、かと思っていたが例外もありである！しかし小屋に迷惑は掛けられないので早々に部屋に戻りの飲み直しとなった。さすがのMさんも食べ過ぎたのか、飲み過ぎたのか？早めのご就寝となり、特に後発隊は疲れていたのか消灯前に眠りに入って行った。

よいよ明日は今回のメインイベント「アイスクライミング体験」！窓の外を見上げると満天の星が輝いていた。「明日は天気になりそうだ〜」

22日（日）

窓の外は雪がチラつき真っ白だった。

カーテンを開けると昨日の星空が嘘のように重たい雪雲に覆われていた。気合いを入れ外へ出る準備をする。8時半に受付前に集合し、簡単な説明を受けて各自ハーネス、アイゼンのレンタルをしてアイスクャンディーの前に集合した。個人で用意する装備はヘルメットとサングラスくらいだが、アイゼンは普通の12本刃の人もいた。私はハーネスも用意してきたが沢用のハーネスだったので簡易用と判断されて「レンタルのハーネスを使ってください。」と言われてしまった。あと、サングラス又はゴーグルも必須です。氷の欠片が降ってくるので目の保護と日避けのようなのですが、私は溶接用のプラスチックの眼鏡を用意しましたが、これはマイナス10度以下の場所では凍り付いてしまうのでゴーグルのほうが良いでしょう。手袋も作業用の防寒ゴム手袋を使ってみたが寒さに耐えられず途中から雪山用の手袋に替えてしまった。

やっぱりやってみないと分からないことは多い様で、アックスもいろいろなメーカーを使って自分に合った物が良いようだ。

クライミング初挑戦でいきなりアイスに登ったTyさんは見事に一本登ったが、その後体調不良で小屋に戻ってしまった。他のメンバーは一人3〜4本登り2時間があつと言う間に終わってしまった。その後みんなやる気満々で「次は雲竜溪谷行きたいね」とか「アックスはグリベルがいい」とか話しが進み「でも、初心者だけでは無理か？誰か誘ってまたやりたいねー」と、大いに盛り上がった。



遅めの昼食を小屋で食べ14時前に下山を開始した。帰りは1時間程度で駐車場へ到着15時過ぎには美濃戸口へ向けて車を走らせた。帰りは下りで行きよりも雪が多く、轍にタイヤが入り

時々スリップする場面があった。後方を見るとK kさんの車は余裕で後ろに着いてくる。やっぱりパートタイム4駆は安定している！そんなことを考えていると前方からスゴイ勢いで向ってくるジムニーが、どこにも避けることが出来ないので、少しだけ開けている場所で停まっていると右側へ大きく避けてくれた。運転手を見るとなんと赤岳鉦泉の4代目だった。ゆっくり挨拶もする余裕も無く通り過ぎてしまったが、やっぱり悪路でのジムニーの走破力は抜群にいい！「次を買う車はパートタイム4駆にしよー！」とか考えてしまった。

帰りは日帰り温泉「もみの湯」500円で三日分の垢を落とし諏訪南C Iへ。冬の中央道は夏とは別人のようにガラ空きで2時間程度で石川PAに到着。夕食も全員ガッツリ食って元気よく解散となった。